

競技注意事項

1. 規則

- ①競技は2022年度（一財）日本陸上競技連盟規則、及び本競技会要項、申し合わせ事項に準ずる。
- ②競技に使用するシューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）は、WA シューズリスト承認であること。また、本競技場が認めていないニードルピンなどの規定外の使用も認めない。
- ③日本陸上競技連盟規則 TR16.7 の項目については、本競技会ではこれを適用しない。
- ④走高跳以外のフィールド種目については、3回の試技をもって終了とする。
- ④本競技会は無観客で実施する。

2. 練習

- ①ウォーミングアップは、公園内及び競技場内走路で危険防止に十分注意して行う。
- ②両日とも9：15まで競技場内での練習を、係・マーシャルの指示により許可する。
バックストレートでの練習は係・マーシャルの指示により100m・200m・ハードル競技の時に支障のない限り認める。
フィールド競技の練習は、競技開始前に競技役員の指示により競技場内で行う。
投てき種目については安全に十分注意し行う。ただし競技場外での投てき練習は一切禁止する。

3. 競技場入退場・招集

競技場には標識票（リストバンド）を着装した競技者・競技役員以外の入場は認めない。
ただし、所定の手続きを経て配布された標識票（リストバンド）を着装した競技会・参加団体関係者は入場を許可する。

- ①招集は2回実施し、各招集は以下の通りとする。
競技日程に示す招集開始・招集完了時刻を厳守し、招集時間に遅れた者は棄権とみなし、出場を認めない。
第1次招集は正面スタンド入口付近に設置する。
第2次招集のトラック競技出場者は各競技スタート地点付近を招集場所とする。
第2次招集のフィールド競技出場者は各競技の試技場所付近を招集場所とする。
- ②第1次招集について
全ての競技者は、自身の競技用上衣に着装したアスリートビブス（ナンバーカード）を係に提示し確認を受ける。
* 100m・200m・400m・100mH・110mH・4×100mR・走高跳・走幅跳・及び砲丸投種目の出場者は、競技に使用するシューズが、WA リスト承認（または靴底厚さ測定値が規定内）であることの確認を受ける。
*全てのトラック競技出場者には確認終了後、写真判定用「腰ナンバー標識」を配付する。リレー種目は第4走者のみ。この写真判定用「腰ナンバー標識」は競技終了後、係（補助員）へ返却すること。
第1次招集開始時刻及び完了時刻は、プログラム記載の競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

第1次招集 開始	第1次招集 完了
競技開始 1時間30分前開始	競技開始 1時間前完了

③第2次招集について

第2次招集場所での集合開始は、第2次招集開始時刻の5分前を目安とする。

*トラック競技出場者の第2次招集は、競技者本人がスタート地点後方に集合し、出発係から出発呼・確認を受ける。

「アスリートビブス」着装と、写真判定用「腰ナンバー標識」（リレーは第4走者）を右腰後部に装着してあること。

* 800m・1500m・3000m 種目出場者については、WA 承認シューズである確認を係から受けること。WA シューズリスト以外の場合、靴底厚さが25mm以内であることの確認を行います。

各確認完了競技者は出発係の誘導・指示によりスタート位置に移動する。

なお、アップ時の着衣等は持参した用具袋にまとめ、係から指示された場所に置き、スタート待機する。

第2次招集 開始	第2次招集 完了
競技開始 20分前開始	競技開始 10分前完了

*フィールド競技は試技場所において、係からアスリートビブス及び試技順確認を受けた後、係の指示に従い練習・試技する。

第2次招集 開始	第2次招集 完了
競技開始 45分前開始	競技開始 30分前完了

④各招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権をするものとみなし処理する。

スタート・試技場所に、第1次招集所の確認がなくしゅうごうした場合、第2次招集を受けることができない。

⑤競技場内への入退場については、競技者係及びマーシャルの指示に従う。

- ・競技場正面スタンド両側の階段を降り、発送地点までの移動については、8レーン外側の芝生の部分を通行する。
- ・競技者の手荷物は、スタート・試技前に係に指示された場所にコンパクトにまとめて置き、整理整頓に努める。
- ・スタート、試技場所への入退場については、本部室前の通過ならびにフィールドの横断等はない。
- ・フィニッシュ、試技完了後、退場の際は、手指消毒、手洗い、洗顔等を行い感染防止に努めること。

4. 競技用シューズに関して

本競技会では、競技者が日本陸上競技連盟 TR5.2 に適合した WA シューズリストで承認されている市販のシューズを競技に使用していることを前提としているので、参加者全員のシューズチェック（検査）は実施しない。

シューズに関する主要規則の確認

*靴底厚さは、フィールド種目と 800m 未満は 20mm 以内、800m 以上の種目は 25mm 以内。

*靴底は、11本以内のスパイクを取りつけられる構造。

*11個までの任意のスパイクを使用することができ、その取り付け①は11カ所を超えない。

*スパイクの長さは、9mm 以下（走高跳は 12mm 以下）、その長さの 1/2 が 4mm 四方の定規に適合よう作られたもの。

*購入した状態で使用することが前提で、インナーソールの変更等靴底厚さが変わるカスタマイズは WA の事前承認を得たもの。

原則として、WA リスト承認外（または靴底厚さ測定値が規定外）シューズの場合、競走、試技を認められません。

競技前・中に審判員が疑義を抱いた競技用靴に対し、競技後に審判長の権限で検査をすることがあります。

シューズ規則（TR5.2）規定外のシューズを使用し、競走・試技した場合、指導・失格（参考記録として連絡）扱いとします。

6. アスリートビブス（ナンバーカード）及び「腰ナンバー標識」

①アスリートビブスは千葉県小中学校体育連盟陸上競技専門部指定で、本年各支部に割り当てられたものを使用する。（男子は白地に黒色数字、女子は白地に赤色数字）

②アスリートビブスは胸（腹ではない）と背にしわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。ただし、跳躍競技については1枚を胸または背に1枚つけるだけでよい。

③写真判定用「腰ナンバー標識」は右腰後部に装着し、競技終了後、係（補助員）に返却する。ただし、リレーは第4走者のみとする。

競技者はユニフォームの裾が「腰ナンバー標識」を隠さないようにユニフォームを着用する。

なお、着用安全ピンは配付しないので、各自で準備すること。

7. スタートルールについて

・不正スタートは、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。（ただし日本陸上競技連盟競技規則 TR16.7 は適用しない）

・混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、そのレースで2回目以降不正スタートの責任ある競技者は、失格とする。（日本陸上競技連盟競技規則 TR16.8）

8. 800mのスタート方法について

本大会は、800mにおいてセパレートスタートを採用する。なお、オープンレーンとなる位置には、ブレイクラインの交差する各ライン上に黄色の角柱（もしくは代用縁石）を置く。

9. 3000mのスタート方法について

本大会は、3000mにおいてグループスタートを採用する。その場合のスタート方法は、各組のレーン番号の2/3までが内側スタート、残りの1/3が外側スタートとなる。なお、その際スタート10m以内には内側・外側をわける縁石はおかない。

10. 走高跳のバーの上げ方

走高跳におけるバーの上げ方は次の通りとする。（天候、その他諸事情によって変更する場合もある）

	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
男子走高跳	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70		以後の高さは審判長の指示による
女子走高跳	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m48		
男四種走高跳	1m25	1m30	1m33	1m36	1m39	1m42	1m45	1m48	1m51	四種の高さは以後3cm単位で上げる
女四種走高跳	1m10	1m15	1m18	1m21	1m24	1m27	1m30	1m33	1m36	

第1位に関わる競技者が同成績の場合は、第1位決定のためのバーの上げまたは下げる範囲は2cmとする。

11. 記録

- ①この競技会の記録については、(公財)日本陸上競技連盟への公認申請を行います。
また、今回の記録は千葉県中学校通信陸上競技大会・千葉県中学校総合体育大会陸上競技大会・千葉県中学校新人陸上競技大会の参加標準記録として適用されます。
- ②トラック種目の競走競技はすべてのレースにおいて写真判定装置を採用する。
- ③写真判定装置は、同一記録の場合、0.001秒での着差判定を行う。
- ④競技記録判定が確定次第、随時記録結果発表を行います。記録の掲示は行いません。後日決勝・記録一覧表をホームページに掲載します。

12. リレー競技について

- ①リレー競技に出場するチームは、リレーオーダー用紙を作成し、その競技の第1招集完了時刻の10分前までに第1招集場所へ提出すること。なお、オーダー用紙は第1招集場所に準備、またはホームページよりダウンロードして作成してください。
- ②リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニホームを着用することが望ましい。
- ③リレーのマーカの使用は1カ所とし、各コーナーの中継場所で係が配付する。

13. レーン及び走路順

- ①トラック競技の組、走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選しプログラムに数字で示す。
- ②セパレートレーンで行う競技で、全レーンを使用しない場合は、常に第1レーンをあけて第2レーンより使用する。

14. 用器具

すべて競技場備え付けのものを使用すること。

15. 抗議

日本陸上競技連盟競技規則 TR8 による。(記録発表後30分以内)

16. その他

- ①各自の持ち物については自分自身で管理し、盗難には十分注意すること。
- ②ゴミについては必ず各自で持ち帰ること。競技場、駅などに絶対に捨てないこと。
- ③競技場内のスタンドにテントを張ることは禁止する。危険防止のため応援はスタンドで行うこと。
- ④正面スタンド下は通行禁止とする。(スタンドを通過して競技場所へ移動する)
- ⑤プログラム記載内容の訂正は8:30までに総務へ申し出る。記載事項の訂正のみとするものとし、組数や種目の変更や新たな追加等は受け付けない。
- ⑥競技中に発生した事故などの応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。
- ⑦総合公園内の体育館及び野球場は借用していないので、立ち入らないようにすること。
- ⑧競技場内と公園等の出入りについては、第3コーナーから第4コーナー付近の「マラソングート」を使用すること。正面スタンド出入口は、選手の入場後閉鎖します。